

第Ⅱ部

基本構想

第1章 まちづくりの考え方（基本理念）

第2章 めざすべき将来の竜王町の姿

- 1 まちの将来像
- 2 将来目標人口
- 3 土地利用構想

第3章 重点プロジェクトの設定

第4章 基本目標

第1章

まちづくりの考え方 (基本理念)

「基本理念」とは、まちづくりにおいて最も大切にしなければならない考え方です。竜王町は、これまで「緑と文化の町」を根幹的な理念にしながら、しっかりとまちを育んできました。この魅力あるまちを未来につなげ、さらに輝かせるため、わたしたちは新たな時代を切り拓く4つの考え方(基本理念)を持って、まちづくりに取り組んでいきます。

(1) 豊かな自然と歴史を誇れるまちづくり

町民の生活の舞台となる竜王町は、美しい田園風景の中で人々の暮らしが息づき、長い歴史を重ねてきました。新たな時代にあっても、この自然と歴史の魅力は普遍的なものとして、町民の心に刻まれています。

こうしたまちの魅力を守り、活かしていくためには、町民がまちの歴史や自然の魅力を理解することはもちろん、地球温暖化等、地球規模の課題に対しても町民生活レベルから取り組むことも必要となります。

先人達が守ってきた自然環境や風土、築いてきた暮らしや歴史に加え、新たな魅力を活かすことで、すべての町民がまちに誇りを持ち、次世代につないでいくまちづくりをめざします。

(2) みんなが安心して暮らせるまちづくり

少子高齢化や地域・家族のつながりの希薄化、就労構造の転換など、わたしたちを取り巻く環境は大きく変化しています。また、地球規模での環境問題や自然災害の発生、交通事故や犯罪、虐待による被害、食の安全など、生活の中で不安を感じる要素は多岐にわたります。

福祉や健康、防犯・防災、就労、地域のつながりの充実を図り、子どもたちが健やかに成長でき、働きやすい環境づくりなどを含め、誰もが安心して暮らし続けることができるまちづくりをめざします。

(3) チャンスを活かすたくましいまちづくり

全国的な社会経済の動向や個人のライフスタイルが多様化していく中で、竜王町では、ここ数年で大きな変化の時期を迎えています。まちを訪れる人が増え、町民生活は今よりも便利になっていきます。

将来人口の減少が予測される中、竜王町自体や地域コミュニティの持続、産業を活性化させるためには、若い世代を中心とした人口増加に向けた取り組みとともに、地域の中で活躍する人材や企業・団体を育てていくことが必要です。

自然や歴史・文化、農商工が揃った強みと、変化の時期におけるチャンスを活かし、たくましいまちづくりをめざします。

(4) 町民と行政の協働*により築くオリジナルのまちづくり

これからのまちづくりには、様々な場面での町民の参画が欠かせません。竜王町では、これまで町にとって重要なことを決める際には、町民と行政が話し合い、進むべき方向性を判断してきました。市町合併の検討においても、しっかりと議論を重ね、現在に至っています。これは町民も行政も、竜王町のこれからの真剣に考えた結果であり、町民の町政への参画、協働*への第一歩です。

これからは町民と行政、町民同士、顔が見えるまちの規模を活かしながら、お互いの得意分野で高め合うことができる関係を創っていくことが必要です。

町民が、まちの未来を見据え、企画段階から関わり、実行する、竜王町らしい町民主導によるオリジナルのまちづくりをめざします。



平成 22 年の竜王中学校輝竜祭（文化祭）で 1 年生が作成した作品。
一人ひとりが竜王町の魅力を絵に描いて、学年全体でつなぎ合わせています。

第2章

めざすべき将来の竜王町の姿

1 まちの将来像

(1) まちづくりにおける将来像とは

将来像とは、町民(住民、地域、企業、団体など)・行政がともにまちづくりを進めていくうえで、共通にイメージできる方向を示したものです。まちの個性が表現され、将来に向けたまちづくりの指針としての意味が込められています。

長期的な視点でまちづくりを進めていくためには、この将来像に基づき、町民や訪れる人などまちづくりに携わるすべての人々が同じ目標に向かってそれぞれの取り組みを推進することが重要となります。

(2) 竜王町の将来像

竜王町は今、大きな変化の時期にあります。これをチャンスとして活かすためには、何よりも「ひと」の力が欠かせません。人口を増やし、まちの規模や財政の安定を図ることはもちろん、人材や企業などを育成していくことも必要です。また、町民一人ひとり、企業や行政がそれぞれで活躍するだけでなく、「みんな」で協働*して竜王町を盛り上げていくことができれば、まちの「煌き=魅力、活力」は、何倍、何十倍にもふくらみます。

これまで育まれてきた、「緑と文化の町」に表される美しい田園風景や多様な歴史・文化に、交流人口の増加による新たな元気が加わった「交竜の郷」を舞台として、たくさんの「ひと」が育ち、まち全体が「みんな」で「煌く」ことをめざし、これからの10年間、まちの将来像を「“ひと”育ち みんなで煌く 交竜の郷」とします。

竜王町の将来像(10年後のあるべき姿)

“ひと”^{そだ}育ち みんなで^{きらめ}煌く
 交竜の郷^{こうりゅう さと}

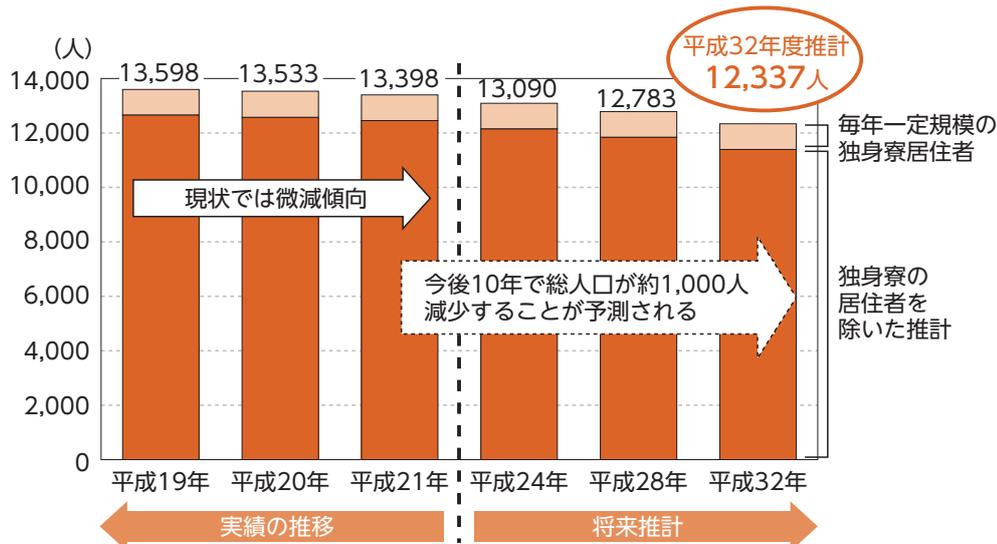
- ひと : 竜王町で暮らす人、活動する人、訪れる人、地域、企業、団体など竜王町に関わるすべての主体。
- 育ち : 子どもから大人まで学びや体験などの活動を通じ、自らの能力を高めるとともに、まちづくりの資源となる人材育成を図る。また、企業や団体の成長。
- みんな : “ひと”がそれぞれ対等な立場で、目的の達成に向けて協力していく=協働*。
- 煌く : 人口増や“ひと”の活躍、産業活性化など、将来に夢を持つことができる竜王町全体の元気や魅力の高まり。
- 交竜 : 広域交流・観光交流の活性化などの町外との交流、住民同士や企業との地域内交流。「交流=交竜」としているのは、竜が天に昇っていくようにまちの発展をめざすイメージ。
- 郷 : 町民生活の舞台となる「緑と文化」が輝く私たちのふるさと。

2 将来目標人口

総合計画は今後 10 年間のまちづくりの方向を定めるものです。そのため、まちの規模を表す基本的な単位となる人口について目標値を定め、これに基づいた施策を展開する必要があります。

(1) 将来人口推計

竜王町の総人口のこれまでの実績の推移と今後の将来推計は、以下のようになります。



※住民基本台帳+外国人登録人口を用い、コーホート変化率*による推計。
 ※企業の独身寮に住んでいる人が毎年一定数であると想定して推計。
 ※推計時点の数値として、平成21年を現状値としています。

■年齢3区分別将来人口推計の推移

上段:人 下段:%	平成 21 年	平成 24 年	平成 28 年	平成 32 年	増減 (人)
0～14 歳	1,779 13.3	1,688 12.9	1,615 12.6	1,502 12.2	▲ 277
15～64 歳	9,192 68.6	8,892 67.9	8,309 65.0	7,779 63.1	▲ 1,413
65 歳以上	2,427 18.1	2,510 19.2	2,859 22.4	3,056 24.8	629

減少していくのは、「子ども」と「働き世代」に集中しています。

人口減少による影響 ～なぜ人口減少することが問題なの？～

10 年間で約 1,000 人減少と聞いて、「そんなに変わらないなあ」「静かになって暮らしやすくなる」と思う人がいるかもしれません。しかし、減少は若い世代に限定されます。特に働き世代が減ることで、地域の行事や消防・防災の担い手がなくなったり、その役割が高齢者に集中することになります。税収が減るのに対し、介護保険などの社会保障費は増大し、まちの財政は圧迫されます。さらに、子どもを生み、育てる世代が少なくなるわけですから、子どもはどんどん減っていきます。こうなるとまちの存続自体が危うくなってしまいます。

これまで住宅団地ができた、企業の社員寮ができたことで、人口がほぼ横ばいで推移してきました。しかし、土地利用上の条件や社会経済情勢の悪化等により、何もしなければ、「人口維持」は望めません。竜王町は人口減少加速の岐路に立っています。

2 将来目標人口

(2) 将来目標人口

前頁で示したとおり、このままの状態が続くとすれば10年後には約1,000人の減少が見込まれ、若い世代が減ることで、人口のバランスはいびつなものになります。

竜王町では、土地利用上の条件等により大規模な住宅開発等が難しいのが現状です。しかし、比較的雇用の場が多いことやタウンセンターエリアの整備、アウトレットモールのオープンにより、今後、生活の利便性の向上や交流人口の増加が予想される竜王町では、定住人口増加のチャンスがあります。

このチャンスの時期に、人口減少を抑制し、特に若い世代の維持・増加をめざし、目標人口を14,000人と設定します。

平成32年度 目標人口 14,000人

平成32年度の推計人口	12,337人
+ ステップ1 未活用資源の活用	1,030人
+ ステップ2 新たな受け皿づくり	700人
<hr/>	
≡ 平成32年度の目標人口	14,000人



ドラゴンピック（町民運動会）

[参考] 目標人口の到達ステップ

目標人口 14,000 人に到達するための対策・受け皿づくりとして、以下のステップで取り組みます。

ステップ1 未活用資源の活用 (1,030 人)

① 既存住宅団地の空き区画への誘導

町内の既存住宅団地の空き区画への入居促進を図ります。

$$140 \text{ 戸} \times 3 \text{ 人 (1 世帯あたり人員)} = 420 \text{ 人}$$

既存住宅団地：松が丘、美松台、松陽台、希望が丘、さくら団地

② 新規住宅団地 (鏡北部地域) の活用

新たな住宅団地への入居促進を図ります。

$$150 \text{ 区画} \times 3 \text{ 人 (1 世帯あたり人員)} = 450 \text{ 人}$$

③ 空き家対策

住宅団地を除く集落における空き家について、有効活用を図ります。

$$27 \text{ 集落 (住宅団地は除く)} \times 2 \text{ 戸} = 54 \text{ 戸}$$
$$54 \text{ 戸} \times 3 \text{ 人 (1 世帯あたり人員)} \div 160 \text{ 人}$$

27 集落：32 集落から松が丘、美松台、松陽台、希望が丘、さくら団地を除いた集落

ステップ2 新たな受け皿づくり (700 人)

① 市街化区域*周辺の活用

町内の市街化区域*周辺において、集合住宅等、人口の受け皿づくりを図ります。

$$5 \text{ 棟} \times 20 \text{ 戸} \times 3 \text{ 箇所} = 300 \text{ 戸}$$
$$300 \text{ 戸} \times 1 \text{ 人 (主に単身世帯を想定)} = 300 \text{ 人}$$

② 集落周辺における地区計画の活用

集落周辺において、地区計画を活用した、住宅開発を促進します。

$$27 \text{ 集落 (住宅団地は除く)} \times 5 \text{ 戸} = 135 \text{ 戸}$$
$$135 \text{ 戸} \times 3 \text{ 人 (1 世帯あたり人員)} \div 400 \text{ 人}$$

3 土地利用構想

まちづくりの基盤となる土地利用構想について、土地利用計画の方針、まちづくりの“軸”の設定、人口増の“受け皿”づくり、まちづくりの“拠点”を設定し、将来像を達成できる条件整備を行う計画的なまちづくりを進めていきます。

(1) 土地利用計画

竜王町の地形条件や自然条件を基本として、市街地地域、田園地域、森林地域に分類し、それぞれ固有の特徴や資質を活かしたまちづくりを進めていきます。

① 市街地地域

名神竜王 IC 周辺や鏡工業団地、町域南部のダイハツ工業工場用地などの市街化区域^{*}は、今後も計画的かつ適切な土地利用誘導を図ります。

また、新規住宅地などの誘導のため、計画的な市街地整備を推進します。

タウンセンターエリアには、多様な都市機能を集積し、町民生活の利便性を高めるとともに、にぎわいや活力が感じられる市街地として町民と行政の協働^{*}による整備を推進します。

② 田園地域

祖父川東側に広がる平野に点在する農業集落は、周辺の自然資源や農地とともに田園環境を形成しているため、今後も優良な田園環境を保全することを基調とし、生活基盤の整備による居住環境の向上や新家建設などによる活力維持を図ります。

農業生産の基盤となる農地は、今後とも保全を基本とし、体験学習型農園、観光農園などの創出に努めます。

祖父川や惣四郎川をはじめとする河川は、農業環境を支えてきた背景を踏まえながら、それぞれの河川管理者とも連携し、災害に対応する施設整備等を推進するとともに、適切な保全・維持管理に努めます。

③ 森林地域

町域の西端、鏡山などの森林地域は、森林が有する多面的な機能に配慮し、適切な維持管理のもと保全に努めるとともに、自然体験型レクリエーション機能の強化を図ります。

名神竜王 IC 周辺は、まちの活力を担う商業・業務や工業などの機能集積地として重要な箇所となるため、社会経済情勢を踏まえつつ、恵まれた自然環境の保全に配慮し適切な開発誘導に努めます。

(2) まちづくりの“軸”

まちづくりの“拠点”を効果的かつ重層的にネットワーク化する骨格となる軸を形成し、まち全体の魅力と活力の向上をめざします。

① 国土幹線軸（名神高速道路・国道8号）

名神高速道路は、全国に繋がる国土軸として、その機能を活用します。

国道8号は、周辺市町を含む国土レベルの幹線軸として、その機能を活かした適切な土地利用を図ります。

② 広域連携軸（国道477号・広域交通ネットワーク構想路線）

隣接する市や三重県方面と繋がる国道・県道を基本として広域連携軸を設定し、その軸上のゾーンにおいて広域的な機能を発揮する土地利用や施設の集積を図ります。

また、名神竜王IC周辺の整備と連動したアクセス道として、広域ネットワーク構想路線の整備に向けた促進活動を実施します。

③ 一般軸（（県道）綾戸東川線・（主地道）彦根八日市甲西線・（町道）林鷓川線など）

広域幹線軸を結ぶ軸を設定し、広域幹線軸を補完する機能や町民生活面で必要な機能の集積を図ります。

④ 行政文化軸（（県道）小口川守線）

総合庁舎前を通る東西の道路周辺を行政文化軸と位置づけ、中心核の整備に合わせた軸の強化を図ります。

⑤ アメニティ※軸（善光寺川・祖父川・惣四郎川・日野川）

主要な河川に沿って、緑地の保全・形成、親水空間の整備並びに歩行者用道路のネットワーク形成等を図ります。

（3）人口増の“受け皿”

人口の増加に向けた“受け皿”について、既存の地域資源を活用しつつ、新規住宅団地を含めた確保をめざします。

① 新規住宅団地（鏡北部地域）

若者夫婦世帯をターゲットとして定住人口の増加を図るため、地区計画を設定し、新たな住宅団地を形成します。

② 既存住宅団地（さくら団地・松が丘他）

既存住宅団地について、空き区画への入居促進により、定住人口の増加を図ります。

③ 集落周辺（各集落）

既存集落の周辺において、地区計画を活用した新家建設の促進を進め、主に町内居住者や出身者のUターン※を中心に定住人口の増加を図ります。

④ 市街化区域※周辺（名神竜王IC周辺・ダイハツ工業（株）竜王工場周辺・鏡工業団地周辺）

既存の市街化区域※周辺部において、市街化区域※に編入する等したうえで、新規住宅区域を設け、若者世代向けの賃貸集合住宅の誘導を進め、主に町内の若い世代をターゲットとして定住人口の増加を図ります。

3 土地利用構想

(4) まちづくりの“拠点”

恵まれた自然環境や歴史・文化的資産を将来へと受け継いでいくため、計画的かつ重点的に魅力ある拠点づくりを進めます。

① タウンセンターエリア (総合庁舎周辺)

総合庁舎を中心としたタウンセンターエリアにおいて、行政機能・生涯学習機能・生活利便施設・健康福祉機能・安心・安全機能の集積・機能充実を図ります。また、町民サービスの拠点、町民が集う場所として活用されるための施設間の機能連携を図りながら、町内各地区や町民への様々な情報発信を図ります。

② 広域商業拠点 (名神竜王 IC 周辺)

名神竜王 IC 周辺は、アウトレットモールの集客力を活かし、商業施設の充実を図ります。

③ 工業拠点 (名神竜王 IC 周辺・ダイハツ工業 (株) 竜王工場周辺・鏡工業団地周辺・国道 8 号沿道)

町域南部に立地するダイハツ工業の工場用地を中心とした生産拠点を設定し、本町の工業振興を図ります。

国土レベルの広域連携軸を最大限に活用するため、名神竜王 IC 周辺、国道 8 号や国道 477 号の沿道周辺に工業拠点を配置します。特に、名神竜王 IC 周辺の岡屋工業団地においては、市街化区域*に編入し、県をはじめとする関係機関と連携を図りながら、周辺環境との調和に配慮しつつ、工業機能の計画的な立地誘導を図ります。

④ 農業観光拠点 (竜王町農林公園周辺)

畑地かんがい事業により整備された竜王町農林公園を、増加した観光客のニーズに対応していくため、さらに施設や生産力の充実を図り、農業観光拠点としての機能を強化します。

⑤ 観光・レクリエーション拠点 (ドラゴンハット・アグリパーク竜王・妹背の里・希望が丘文化公園・道の駅・鏡山周辺、雪野山周辺・竜王 G.C・名神竜王 IC 周辺)

既存の観光・レクリエーション機能の充実に加え、広域商業拠点と連携するため名神竜王 IC 周辺の市街化区域*を拡大し、生産拠点や農業観光拠点を合わせ、各拠点間のネットワーク化を図ります。

雪野山山麓に整備された雪野山史跡広場「妹背の里」の活用など、史跡等を活かした拠点機能の充実を図ります。

鏡山周辺は、鏡神社や道の駅等をネットワーク化しながら、拠点としての機能強化を図ります。

⑥ 運輸流通拠点 (名神竜王 IC 周辺)

交通の要衝となる名神竜王 IC 周辺は、市街化区域*として一帯を物流拠点に位置づけ、農商工の活性化に向けて中京・京阪神等や周辺市町への物流機能等の充実を図ります。

⑦ 交通結節拠点 (名神竜王 IC 他)

高速道路の需要拡大に対応するため、名神竜王 IC の周辺土地の活用も含め、IC 機能向上に向けた充実を促進します。

第3章

重点プロジェクトの設定

(1) まちづくりの目標

竜王町は、自律したたくましいまちづくりを進めていますが、まちづくりの最終的な目標は、「町民が安心して暮らし続けられるまち」の実現です。

(2) まちづくりの進め方

「地域が自律し、たくましく自力を高める」「地域でしかできないことや地域が取り組む方がスムーズに進むことについては地域が主体的に考え、実行できる」ことが大切です。そのためには、タウンセンターエリアの機能などを活かして地域で活躍できる“ひと”育ち（人材育成）していくことも重要な要素です。

そして、それらを支える行政サービスを継続して提供するためには、人口の維持や増加、産業の活性化による税収確保など「まちの規模」を維持・拡大するとともに、広域的な連携を構築することで行財政基盤を安定させる必要があります。

(3) まちづくりに必要なもの

「まちの規模」や「まちの活力」の基礎は、「人（人口）」であると言えます。将来人口推計では、全国的な傾向と同様、竜王町でも人口減が予測される中、本計画では、「人（人口）」に焦点を当て、定住人口の増加はもちろん、交流人口となる町外からの来訪者や活動人口となる地域で活躍する町民の増加をめざし、重点的かつ戦略的に取り組んでいく必要があると考えます。

(4) 重点プロジェクトの実施効果

住民・地域・企業を巻き込んだ戦略的な重点プロジェクトを実施することにより、「交流」「定住」「活動」の3つの人口の維持・増加を図ります。これらの取り組みを実施することで、現在住んでいる人の住みやすさの向上や、行財政基盤の安定が図られるため、「町民が安心して暮らし続けられるまち」という最終目標の実現にもつながっていきます。

(5) 重点プロジェクトの位置づけ

重点プロジェクトは、「人（人口）」に焦点を当てた戦略的な取り組みとして位置づけ、基本計画に定める一般施策とは別枠で設定します。また、いずれのプロジェクトについても、複数の担当課、関係機関、町民との協働*に基づいて行われるものとしします。

(6) 重点プロジェクトの分類

重点プロジェクトは、5つの重点分野と、3つの人口戦略で分類します。

① 5つの重点分野

現在のまちの状況や町民意識調査の結果などを踏まえ、竜王町にとって今後5年、10年で重要と考えられる分野を5つにまとめました。なお、ア)～ウ)を重点プロジェクトとし、エ)～オ)はプロジェクトを動かすエネルギーと舞台づくりとして位置づけます。

ア) 人育ち 夢輝く 郷づくり

自然環境の保全・活用、子育て・子育て環境の向上、タウンセンターエリアやそれぞれの地域における人育てなど、まちの魅力を輝かせる取り組みをまとめます。

イ) 暮らし 潤う 郷づくり

タウンセンターエリアや医療・交通、防犯・防災面などからの安心の確保による、町民生活の利便性を高める効果をさらに上げるための取り組みをまとめます。

ウ) 活力 煌く 郷づくり

名神竜王1C周辺の整備や起業・雇用対策、農商工連携など、まちを活性化するための取り組みをまとめます。

エ) みんなが担う 郷づくり

町民が目的の達成に向けて協力して進めるまちづくりや行政力の向上など、竜王町全体の元気や魅力を高めるプロジェクトのエネルギーとなる取り組みをまとめます。

オ) 「交電の郷」 舞台づくり

住宅施策や土地利用など、プロジェクトの舞台づくりに関する取り組みをまとめます。

② 3つの人口戦略

ア) 交流人口戦略

観光入込客数や通勤・通学による流入者数を表します。「交流人口戦略」により、まちのにぎわいを創出するとともに、まちの魅力を多くの人に紹介することで、竜王町への関心を高め、定住人口増加のきっかけづくりを行います。

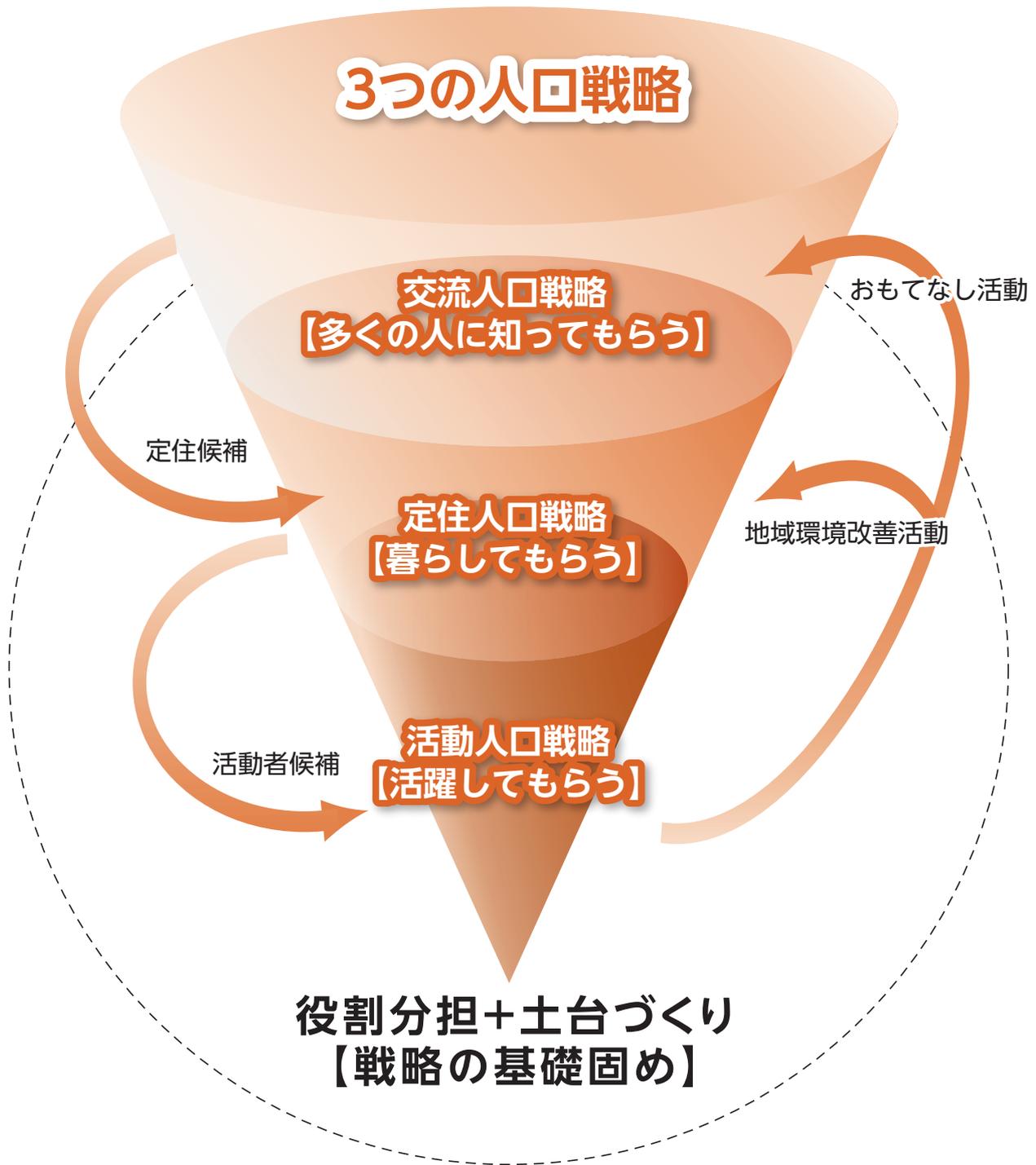
イ) 定住人口戦略

竜王町に居住している人の数で、まちの規模そのものを表すものです。「定住人口戦略」により、人口の減少に歯止めをかけ、増加に転じるような施策を行います。

ウ) 活動人口戦略

ただ竜王町に居住しているだけでなく、何らかの活動をしている人の数で、まちの活力を表すものです。「活動人口戦略」により、人口の大幅な増加が見込めなかったとしてもまちの元気を維持・拡大していくことにつながります。

■重点プロジェクト 3つの人口戦略イメージ図



町民視点の計画とするため、「子ども世代編」「子育て・働き盛り世代編」「シニア世代編」の3つのライフステージと、全世代にかかる「まちの基盤づくり編」「確かな行政力編」の2つのステージをあわせた5編構成とし、世代に応じて、5つのまちづくり分野に関する施策展開の目標を設定します。

5つのまちづくり分野

- 学…… 町民の学びに関する分野
- 安…… 生活の安心・安全に関する分野
- 結…… 町民間や行政とのパートナーシップ*のもと主体的に活動することに関する分野
- 美…… まちの美しい環境に関する分野
- 活…… まちの活力に関する分野

ライフステージ

スクスク わくわく 子ども世代編

竜王町の次世代を担う子どもが、健やかにいきいきと育つために必要となる取り組みをまとめます。

- 学…… 就学前教育や学校教育を中心としながら、地域社会とも連携し、学力だけでなく、これからの竜王町を担う人材の育成という観点から、幅広い知識や能力を身につけることとあわせて、まちへの誇りや郷土愛が深まることを目標とします。
- 安…… 福祉・保健・医療などによる健やかな成長への支援や防犯・交通安全など、安全に暮らすことができる環境づくりを目標とします。
- 結…… 体験学習や地域活動への参加などにより、心豊かな子どもの育成を目標とします。
- 美…… 環境学習など、率先して取り組むことで、環境にやさしい暮らしの実践を目標とします。
- 活…… 多様な交流を通じた、国際感覚の醸成を目標とします。

バリバリ 子育て・働き盛り世代編

就労、結婚、子育て期にあたる世代が、暮らしやすさを実感できるようにするための取り組みをまとめます。

- 学 …… 豊かな人生を送るための趣味や健康づくり、さらには、社会を担う現役世代としてまちづくりにつながる学習への支援、人権尊重の社会や男女共同参画社会づくりなどへの理解を深めることを目標とします。
- 安 …… 子育て、健康・医療、障がい者福祉や防犯・防災の推進、雇用の確保など、本人や家族が、健康で安心して暮らし続けられることを目標とします。
- 結 …… 協働*の取り組み、地域コミュニティの活性化、ボランティア活動の促進など、地域の絆づくりや担い手としての活躍を目標とします。
- 美 …… 環境保全、資源循環などを生活の中に根付かせることで、竜王町の美しい環境を次の世代に受け継いでいくことを目標とします。
- 活 …… 農業、商工業、観光交流の振興を図り、働き手や担い手としての活躍を目標とします。

イキイキ ゆうゆう シニア世代編

就労、結婚、子育て期にあたる世代が、暮らしやすさを実感できるようにするための取り組みをまとめます。

- 学 …… これまでの豊かな経験に基づく知識や能力、生涯学習活動の成果を、地域に還元することで、生きがいを創出する仕組みづくりや歴史・文化を次の世代に伝承していくことを目標とします。
- 安 …… 住み慣れた地域で暮らし続けられるための支援や防犯・交通安全、防災など安心の確保を目標とします。
- 結 …… 地域において、まちづくりの担い手として活躍できる仕組みづくりを目標とします。
- 美 …… 環境保全、資源循環などを生活の中に根付かせることで、竜王町の美しい環境を次の世代に受け継いでいくことを目標とします。
- 活 …… 雇用の確保や地域資源を活かした事業開発など、高齢者が主役となれる産業振興を目標とします。

まちの基盤・行政力ステージ

まちの基盤づくり編

全世代を通じて、竜王町で安心して暮らすことができるようにするための取り組みをまとめます。

土地利用、道路・交通、上下水道などのインフラ整備による生活環境の向上や歴史資産の保護、災害時要援護者*への支援、社会保障など、全世代を対象とした取り組みにより、暮らしやすいまちの基盤づくりを目標とします。

確かな行政力編

安定的な行政経営や町民ニーズに応じたサービスを提供する「行政力」に関する取り組みをまとめます。

健全な行政経営、財政運営、周辺市町との協力体制の構築など、時代の潮流を捉えながら、柔軟に対応できる行政力を発揮するための体制整備や職員の能力開発を目標とします。



総合基本計画審議会

